令和３年度　学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
１　基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	①　挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が Ａ　９５％以上である。 Ｂ　９０％以上である。 Ｃ　８５％以上である。 Ｄ　８５％未満である。	Ｂ ７月の教育活動に関するアンケート （保護者）９０％	集計結果は９０％で「B」評価である。コロナ禍であるため「元気に大きな声で挨拶する」という訳にはいかない影響があると考えられる。後期は感染対応を考慮し、生徒会や部活動との協働で挨拶運動に取り組んでいきたい。
	②　服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が Ａ　９５％以上である。 Ｂ　８５％以上である。 Ｃ　７５％以上である。 Ｄ　７５％未満である。	Ａ ７月の教育活動に関するアンケート （生徒）９６％	昨年度の最終評価９７％とほぼ同じ９６％の「A」評価である。昨年度は、コロナ禍のために年度当初の規律指導が実施できない影響があった。今年度は指導もでき改善できた印象を受けている。今後もコロナ感染対応をしながら、服装容疑指導をしっかりと実施していきたい。
	③　規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去５年間の平均値と比べて、変化率が Ａ　１５％以上の減少である。 Ｂ　１５％未満～５％以上の減少である。 Ｃ　５％未満の減少～５％未満の増加である。 Ｄ　５％以上の増加である。	Ｄ ７月時点で過去５年間の平均値より47%（135 件）の増加 ＊H27～R1 の平均 287	長欠傾向の生徒の増加と昨年度来のコロナ禍の影響により「休まず学校に行く」という意識が低下していると思われる。 学校での「学び」が、実社会につながる重要性に気づかせ、都合の良い解釈で欠席・遅刻するべきでないという意識の醸成に取り組んでいきたい。
	④　清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員による清掃点検（クリーンウィーク）で平均清掃達成率が Ａ　９５％％以上オである。 Ｂ　９０％以上である。 Ｃ　８５％以上である。 Ｄ　８５％未満である。	Ａ ７月の環境美化委員の評価では９８．５％	７月のクリーンウィークの平均達成度は９８．５％と高評価であり、教室はおおむね丁寧に清掃されていると思われる。 後期では特別教室などにおいても、今後のクリーンウィークや教職員の清掃点検などを通して、環境美化をさらにすすめていきたい。
	⑤　生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が Ａ　９０％である。 Ｂ　８０％以上である。 Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ ７月の教育活動に関するアンケート （生徒）８２％	人間関係に不安を抱いている生徒が、以前より多く見られる。早期に発見し、面談で原因の解消ができるように努めている。今後は、声かけをさらに行い、生徒が不安感なく生活できるように支援することと、校内連携や外部医療機関との連携を強化していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・昨年同様に遅刻数が多いことは憂慮すべきことである。コロナ禍の状況に生徒の一部で甘えが生じている懸念があるのではないか。 ・ワクチン接種の状況等を調査する必要があるのではないか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・コロナ感染の状況を考慮しつつ、集会等を実施し生活指導面での強化・充実を図っていく。 ・人権等へ配慮し、今後の指導の最適化のためにワクチン接種の状況の把握を検討してみる。（ＰＴＡの理解と協力）		

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
２　授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、公開授業への参加、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	①　教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ａ ７月の生徒による授業評価では９５％	生徒の実態に照らして、授業の内容や難易度を考慮した点や、ＩＣＴ機器の積極的な活用による授業改善の結果が、高い評価につながったと考える。 各教科でＧＩＧＡスクール構想に基づく Chromebook を活用した授業が展開されており、効果的な活用事例を蓄積し共有できる体制を整えていきたい。
	②　教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に１回以上授業見学を行った教員の割合が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ ７月の教育活動に関するアンケート （教職員）８６％	互見授業の実施時期が、総体と重なったこともあり、一部で授業見学が十分に実施できない状況が見られた。 後期には学校公開や校内研究授業もあり、互見授業の機会が多くあるので取組み率をさらに向上させたい。 またＧＩＧＡスクール構想に基づくＩＣＴ活用推進のためにも、先行して取り組んでいる事例研究に互見授業を活用してもらいたい。
	③　生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が Ａ　８０％以上である。 Ｂ　７０％以上である。 Ｃ　６０％以上である。 Ｄ　６０％未満である。	Ｃ スポーツテストの結果では　６８％	昨年度と比較し、評価結果が８６％からかなり低下した。昨年度からのコロナ禍で運動の機会が減ったことが原因と考えられる。運動部への加入が少ない総合学科の女子の体力低下が目立ち、特に今回３年生の数値が低かった。 今後、体育の授業を中心に、体力アップに努めていく。
	④　一人一人の生徒に対してしっかりとした進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が Ａ　１００％である。 Ｂ　９５％以上である。 Ｃ　９０％以上である。 Ｄ　９０％未満である。	―	最終集計で判断する。
学校関係者評価委員会の評価		・授業において一人一台タブレットが貸与されるGIGAスクール構想に向け、ＩＣＴの活用を真剣に議論・準備してもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・研修等を通じて、職員のICTリテラシーの向上や教材データの共有化を一層充実させていきたい。 ・コロナ禍の直近2年間の求人数の減少は小規模で収まったが、早速次年度に向けた情報収集と分析を進めていく。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
３　部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	①　県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した部活動が Ａ　８部以上である。 Ｂ　６部以上である。 Ｃ　５部である。 Ｄ　５部未満である。	Ｂ 全国高校総体に６部出場（男女柔道、なぎなた、ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ、ボート、射撃）	昨年度は、コロナの影響で高校総体が中止となった。今年度は各競技とも感性症対策を徹底しながら、県予選が実施された。他校との練習試合等が制限された状況の中で、６競技がインターハイ等の全国大会に駒を進めた。今後も、工夫しながら競技力向上や新人獲得に努めて行きたい。
	②　部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である。 Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ ７月の教育活動に関するアンケート （生徒）８３％	コロナ禍の影響で活動制限があり予定通りの活動等とはいかなかったが、練習体制の工夫と見直し等により、概ね計画的に実行できた成果ではないかと思われる。今後もコロナ禍の状況を見ながら、部活動のモチベーション維持に努力していく。
	③　生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が Ａ　７５％以上である。 Ｂ　６５％以上である。 Ｃ　５５％以上である。 Ｄ　５５％未満である。	Ａ ７月の教育活動に関するアンケート （生徒）７６％	生徒が主体となって学校行事を企画・運営するように取り組んできた成果が出てきた。意思決定や運営・実施に時間がかかるが、それらを織り込んだロードマップで、生徒主体の生徒会運営を指導していきたい。
	④　様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が Ａ　６０％以上である。 Ｂ　５０％以上である。 Ｃ　４０％以上である。 Ｄ　４０％未満である。	Ａ ７月の教育活動に関するアンケート （生徒）７８％	本校は生徒会主催のボランティア活動が活発であり、各部活動内でのボランティア活動も熱心に取り組んでいる。昨年度は、コロナ禍の為に多くのボランティア活動が中止となり、集計結果も４９％と低調であったが、今年度は工夫しながら活動が開催できていることが成果につながった。
	⑤　学校通信（校内、地域）の発行やＨＰ・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のＨＰや学校メールの発信に満足している保護者の割合が Ａ　８５％以上である。 Ｂ　７５％以上である。 Ｃ　６５％以上である。 Ｄ　６５％未満である。	Ｂ ７月の教育活動に関するアンケート （保護者）８４％	昨年度は学校配信メールやホームページ等を通して連絡・案内（コロナ、学校行事）することが多く評価結果が９３％であった。本年度は状況も落ち着き発信回数も減少した結果、評価がやや低下した。昨年度以上にホームページの改善や学校通信が充実しているので今後の評価に期待したい。
学校関係者評価委員会の評価		・近年定員割れの状況が見られる。本校の進路結果（国立大学、難関私大公務員）を、外部（地元中学校など）にアピールすることをさらに進めてもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・行事等の実施に関しては、感染リスクを理由に中止するだけでなく、やれる工夫を考えて前向きに対処する。 ・中高連絡協議会や中学校訪問時に、本校の進学状況や就職状況のプレゼンを工夫・改善していく。（具体の大学や企業名、学科・系列ごとの状況など）		

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
４　教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	①　教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月８０時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が Ａ　０人である。 Ｂ（月数×１人）以下である。 Ｃ（月数×２人）以下である。 Ｄ　Ｃを上回る。	Ｄ ７月までの４ケ月で時間外勤務 80 時間を超える延べ人数が 14 人。	4，5 月が臨時休業となったＲ２年度の集計値は６人であった。Ｒ３年度は、14 人と増加したが、コロナ禍以前のＲ元年度の集計値の 30 人からは、大幅に減少しおり、校務の効率化が学校全体としてはすすんでいることが確認できる。
		（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が Ａ　８０％以上である。 Ｂ　７０％以上である。 Ｃ　６０％以上である。 Ｄ　６０％未満である。	Ａ ７月の教育活動に関するアンケート （教職員）９７％	働き方改革は、職員にかなり浸透している。ほとんどの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。 しかし一部の職員、運動部顧問においては、大会等への参加、強化育成が最優先となっており、スタイルを変更しがたい状況も依然として見受けられる。
学校関係者評価委員会の評価		・学校の様々なアンケートの集約・集計に関して、教職員が対応するのでなく、第三者の業者に依頼する方が適切ではないのか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・職員の「働き方改革」の一つとして、アンケートの集計に関しては、生徒会や生徒のボランティアの協力も考慮していく。		